

令和4年6月29日

東京都水道局長

古谷 ひろみ 様

東京水道グループ

コンプライアンス有識者委員会

委員長	幸田	雅治
委員長代理	中西	晶
委員	菊池	明敏
委員	羽根	一成
委員	松山	遙
委員	矢野	奈保子

令和3年度東京都水道局内部統制評価報告書に対する意見について

東京水道グループコンプライアンス有識者委員会設置要綱第2条（1）に基づき、令和3年度における東京都水道局の内部統制に対して、下記のとおり意見を付します。

記

1 意見の対象

令和3年度東京都水道局内部統制評価報告書

2 検証方法

東京水道グループコンプライアンス有識者委員会では、令和3年度に開催した3回の委員会で、東京都水道局から、局横断的な内部統制の取組、業務プロセスレベルの内部統制の取組、グループガバナンスの強化に向けた取組の状況について報告を受けるとともに、「令和3年度東京都水道局内部統制評価報告書」の提出を受けた。

本意見書は、外部の客観的視点及び局全体を俯瞰する組織横断的な視点から、東京都水道局の内部統制の取組を検証し、各委員が意見を述べたものである。

3 意見の内容

(1) 内部統制の有効性の判断について

- ・東京都水道局の内部統制が、評価基準日において有効に整備され、評価対象期間において有効に運用されているとの判断は、おおむね相当である。
- ・単年度での有効性の是非を問う以上に、経年でより良い内部統制が運用できたかという視点から今後も運用を継続し、内容面でのブラッシュアップを図られたい。

(2) 業務プロセスレベルの内部統制の取組について

- ・各職場から顕在化したリスクやヒヤリハットの事例が報告されるようになったことは望ましく、どのようなリスクがあるか具体的に提示されたことはプラスの側面である。
- ・顕在化したリスクやヒヤリハットの事例の報告があったということの評価した上で、事故や間違いが起きないように具体的な改善策を記載していることが重要であり、そうした事例について組織内でも共有すべきである。
- ・リスクの洗い出しも大切であるが、今後は過去に洗い出されたリスクを分析するとともに、水道事業に対する都民の意見も真摯に受け止めながら、改善につなげていくことに重点を置くべきである。
- ・なぜ間違いが起こったのか根本原因を分析し、改善につなげていくことがPDCAサイクルであり、そうした考え方を浸透させていくことも必要である。

(3) 東京都水道局の構造的課題について

- ・東京都水道局が構造的課題として挙げたコミュニケーション上の課題については、コミュニケーションの活性化に向けた議論を着実に進め、具体的な取組に落とし込んでいくことが重要である。
- ・コミュニケーションの活性化に向けては、なんでも言える風通しの良い職場づくりのため、職員一人一人の発言のしやすさに寄与する取組も今後実施されたい。
- ・コミュニケーション上の課題のほか、グループ間で今後生じ得る課題について、必要な連携を通じて解決に努められたい。